

2011 年度(平成 23 年度)

事 業 報 告 書

(第 1 事業年度)

自 2011 年 1 月 6 日

至 2011 年 12 月 31 日



公益社団法人 企業メセナ協議会
Association for Corporate Support of the Arts

目 次

I. 法人の概況	2
1. 公益社団法人設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 公益法人の認定に関する事項	
5. 会員の状況	
6. 役員等	
7. 会議等の開催状況	
II. 組織運営の概況	5
• 公益目的事業の再構成と機能強化	
• 会員主体の運営、組織力強化のための体制づくり	
• 入会促進	
• 寄付の受入促進	
• 事務所移転の準備	
• 関西事務所での相談対応	
• 「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド」(GBFund)の設立	
III. 会員主体の運営体制づくり	7
1. 会員交流の促進	
2. 推進組織の発足	
IV. 2011年度の事業概要	9
1. 促進普及事業	9
1-1. セミナー事業	
1-2. 広報事業	
2. 情報集配仲介事業	12
2-1. 発信事業『メセナ note』発行	
2-2. 情報システム事業	
2-3. 資料収集事業	
2-4. 出版事業	
2-5. コーディネート事業	
3. 調査研究提言事業	19
3-1. 調査・研究事業	
3-2. 提言・提案事業	
4. 協力連携事業	20
4-1. 地域メセナ組織交流・連携事業	
4-2. 国際交流・協力事業	
1) 国際交流事業、2) 協力依頼への対応	
5. 顕彰事業	23
5-1. メセナアワード事業	
6. 助成事業	25
6-1. 助成認定事業	
6-2. 震災復興支援事業 東日本大震災 芸術文化による復興支援ファンド	

I. 法人の概況

企業メセナ協議会は、2011年1月6日に公益社団法人に移行した。移行に際して、法人の目的と事業内容を見直し、定款を新たに制定した。

1. 公益社団法人設立年月日

2011年1月6日

※ 1990年4月20日設立の旧社団法人は、移行認定に伴い2011年1月5日に解散登記を行った。

2. 定款に定める目的

この法人は、企業をはじめ芸術文化に関わる団体が参加、協働し、芸術文化振興のための環境づくりと基盤整備に努め、創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

この法人は、先の目的を達成するために、次の公益目的事業を行う。

- (1) 企業による芸術文化支援の促進と普及
- (2) 芸術文化支援に関する情報の収集・発信および仲介・協力
- (3) 芸術文化支援に関する調査・研究および文化政策に関する提言・提案
- (4) 国内外の芸術文化振興に関する団体・機関との交流・連携および企業相互の協力・連携による芸術文化支援の推進
- (5) 企業等による芸術文化支援活動の顕彰
- (6) 芸術文化活動への寄付を促す助成に関する事業
- (7) その他公益目的を達成するために必要な事業

この法人は、公益目的事業の推進に資するための事業を必要に応じ行う。

4. 公益法人の認定に関する事項

- 当該事業年度(2011年度)において、認定法の規定により内閣府から受けた勧告または命令はなかった。
- 2011年9月9日に、税額控除に係る証明(有効期間2011年9月9日より5年間)を取得した。
※ 2011年1月6日(公益社団法人登記日)以降に受けた個人からの寄付金が税額控除の対象。

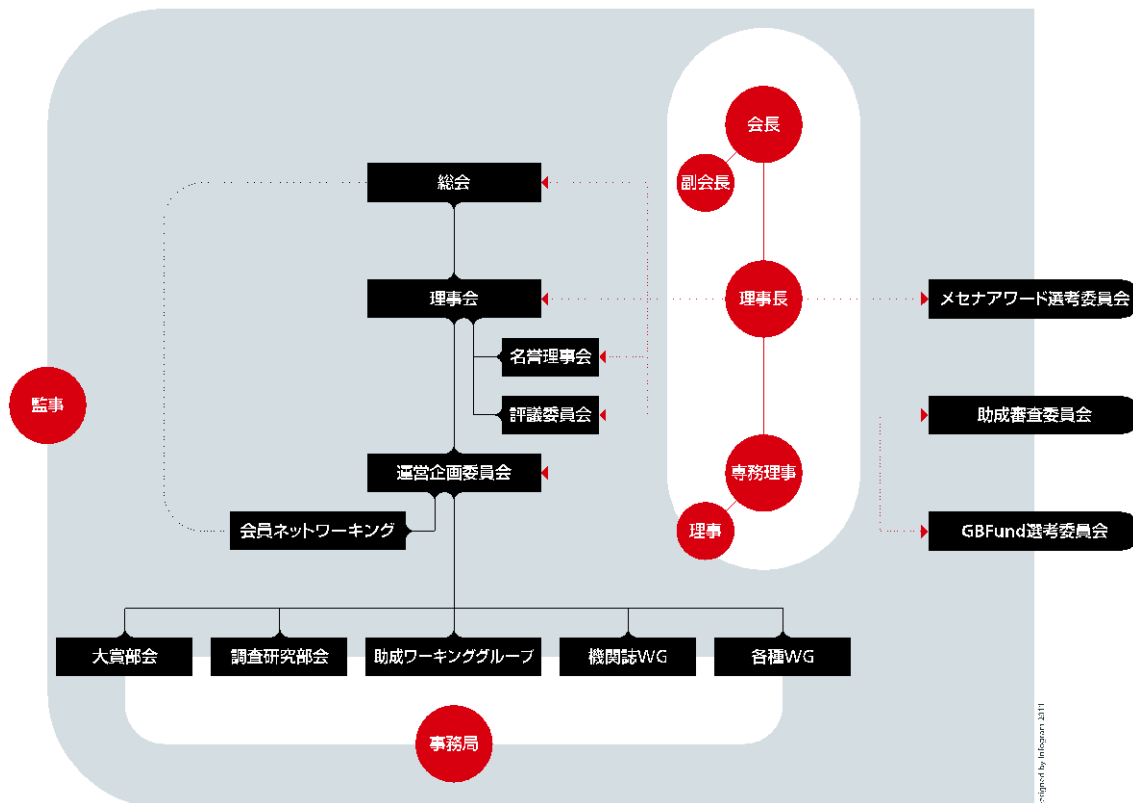
5. 会員の状況

正会員:129社 準会員:38団体 (2011年12月6日現在)

6. 役員等

会 長	福原義春	株式会社資生堂 名誉会長	
副会長	箱島信一	株式会社朝日新聞社 顧問	
理事長	福地茂雄	アサヒグループホールディングス株式会社 相談役	
専務理事	加藤恒夫	大日本印刷株式会社 理事	
理事	片山正夫	公益財団法人セゾン文化財団 常務理事	
	加藤種男	財団法人アサヒビール芸術文化財団 事務局長	
	福川伸次	財団法人機械産業記念事業財団 会長	
	星 久人	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問	
	南 直哉	東京電力株式会社 顧問	
	吉本光宏	株式会社ニッセイ基礎研究所 主席研究員・芸術文化プロジェクト室長	
監 事	岩田武司	弁護士	
	出塚清治	公認会計士	
名誉理事	池田弘一	アサヒグループホールディングス株式会社 相談役	
	梅田貞夫	鹿島建設株式会社 代表取締役会長	
	北島義俊	大日本印刷株式会社 代表取締役社長	
	小林一生	日本生命保険相互会社 取締役常務執行役員	
	櫻井孝顕	第一生命保険株式会社 特別顧問	
	佐々木 元	日本電気株式会社 特別顧問	
	佐治信忠	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長兼社長	
	佐藤正敏	株式会社損害保険ジャパン 取締役会長	
	杉田亮毅	株式会社日本経済新聞社 代表取締役会長	
	張 富士夫	トヨタ自動車株式会社 取締役会長	
	塚本能交	株式会社ワコールホールディングス 代表取締役社長	
	福武總一郎	株式会社ベネッセホールディングス 取締役会長	
	評議員	上田卓司	株式会社フジタ 代表取締役社長執行役員
		内田恒二	キヤノン株式会社 代表取締役社長
鍛冶舎 巧		パナソニック株式会社 常務役員	
高嶋達佳		株式会社電通 取締役会長	
成田純治		株式会社博報堂 代表取締役会長	
林 有厚		株式会社東京ドーム 代表取締役会長	
藤田州孝		ソニー株式会社 業務執行役員 EVP	
前田晃伸		株式会社みずほフィナンシャルグループ 特別顧問	
茂木友三郎		キッコーマン株式会社 代表取締役会長 CEO	
山本忠人		富士ゼロックス株式会社 代表取締役社長 執行役員	
顧 問	堤 清二	公益財団法人セゾン文化財団 理事長	

※なお、2011年12月6日をもって事務局長が田代富保から荻原康子に交代した。



7. 会議等の開催状況

【定時社員総会】

- 3月23日：定款の一部変更／2010年度事業報告ならびに収支決算
- ※ 3月11日に発生した東日本大震災を受けて集会はとりやめ、書面決議により開催。

【通常理事会】

- 3月2日：新会員承認／定款の一部変更／2010年度事業報告ならびに収支決算／2011年度収支予算書補正／規程整備 ほか報告
- 12月6日：2011年度事業計画および予算

【臨時理事会】

- 3月23日：東北関東大震災の復旧・復興支援活動の件
- 5月30日：新会員承認の件
- 9月15日：新会員承認の件

【臨時会員集会】

- 5月27日：第1回定時社員総会についての説明／東日本大震災関連の報告
- ※ 緊急レポート「南三陸町を中心とした被災状況、そしてアートにできること」
報告者：吉川由美氏 (ENVISI代表・プロデューサー、『メセナnote68号』寄稿者)

【役員合同会議】

- 3月23日：第1回理事会の決議事項の報告 ※震災のため開催せず。

【運営企画委員会】

- 1月31日、4月26日、5月27日、6月21日、7月22日、10月18日、11月16日：
協議会事業や運営に関わる事項について検討、推進した。

II. 組織運営の概況

「公益社団法人」化に際して、 協議会の社会的役割の強化と、抜本的な機能強化の1年に

2011年度事業計画では、本年1月の公益社団法人移行に際して上記の方針を示し、協議会の中期ミッションである「理念浸透・合意形成」「文化の底上げ」「文化支援プラットフォーム化」「政策提言」「官民連携のノウハウ構築」を実現するため、以下の重点課題への取り組みを打ち出した。

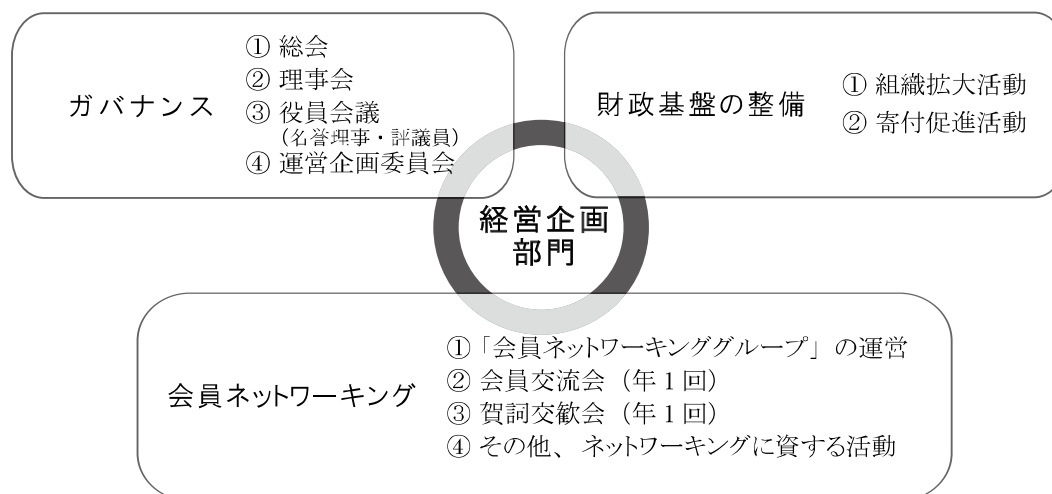
①プレゼンスの向上 ②組織力の強化 ③財政基盤の強化 ④ガバナンス体制の強化
これら重点課題に取り組むため、特に注力した点は次の通りである。

■ 公益目的事業の再構成と機能強化

- 公益社団法人への移行に際し、従来の事業の内容や役割について見直しを進めた。中でも、これまで「調査」(1990年～)「研究」(1999年～)とそれぞれに部会を設けて推進してきた事業を「調査研究」として一体化。新たに発足した「調査研究部会」では、1990年来実施している「メセナ活動実態調査」のリニューアルに着手した。
- 1994年より運営してきた「助成認定制度」は、公益法人制度改革やNPO法人制度改革において税制優遇が拡大されるなどの社会環境の変化に即した制度の運営について検討を始めた。

■ 会員主体の運営、組織力強化のための体制づくり

- 会員企業の参画を強化し、協働でつくり上げる「協議会」を目指すため、各種部会やワーキンググループ、会員ネットワークグループを組織し、9月実施の「第1回会員交流会」より新たな推進体制による活動を開始した(P.7-8)。
- 協議会の経営改革を目指して、加藤種男理事が理事長補佐の任にあたり、事務局の人員増・スキルアップをはかった。さらに、組織運営に関わる業務を担う「経営企画部門」を設置し、組織力の強化と財政基盤の強化、ガバナンス体制の強化に努めた。



■ 入会促進

民間の芸術文化振興を推進する仲間の輪を広げるべく、2011年度は40社・団体に対し入会の働きかけを行い、10社が正会員に、2団体が準会員として入会した。

【会員状況】

区分	2010年12月14日現在		2011年12月6日現在	
正会員	128社	294口	129社	276口
準会員	39社・団体	39口	38社・団体	39口

■ 寄付の受入促進

公益社団法人化に伴い、協議会運営やすべての事業に対する寄付が税制優遇の対象となる特定公益増進法人となったことから(従来は助成認定制度に限定された特定公益増進法人)、寄付の受入促進のための専用口座を3月に開設した。本口座は、3月23日に緊急設立したGBFundの寄付受入に活用し、迅速な寄付対応を支えることとなった。また、寄付税制の改正を受けて「税額控除」対象団体の認可を得るなど、寄付受入の環境整備に努めた(P.2 I.4 参照)。

■ 事務所移転の準備

現在事務所を置いている第一鉄鋼ビルの取り壊しに伴い、2012年3月中旬を目途に新たな事務所に移転すべく、準備に着手した。移転先の選定にあたっては、管理費の削減を重視するとともに、会員や文化関係者等が気軽に訪れ、活用できる事務所づくりに留意した。

【移転先:東京都港区芝5丁目2-3 アイセ芝ビル8階】

■ 関西事務所での相談対応

関西における企業メセナのさらなる普及・推進を目指し、東京事務所より職員(事務局長、事務局次長)が出張し、メセナや助成認定制度等に関する相談に対応した。会員企業やGBFund協力企業の訪問、各種取材等もあわせて行い、ネットワーキングと情報収集に努めた。

- 実施日:2月24日、3月28日、4月21日、6月3日、7月14日、8月8日、9月27日、10月12日、11月10日、12月15日
- 場所:企業メセナ協議会関西事務所(大阪府大阪市中央区:大阪21世紀協会内)

なお、3月11日に起きた東日本大震災に対応し、以下の取り組みを実施した。

■ 「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド」(GBFund)の設立

- 3月23日の通常理事会にて、「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド」(通称:GBFund)の設立を決議。協議会自らが助成を行う初めての活動であり、趣旨に賛同する方々から広く寄付を募るかたちで進めた(実績はP.26 IV.6-2 参照)。震災後の速やかな動きとして注目され、協議会のプレゼンスの向上に寄与したと思われる。また今後、公益法人として新たなファンド形成を検討するうえでの試行ともなった。なお、芸術文化による復興支援という観点、また民間ならではの速やかな対応の例として、マスコミにも再々取り上げられた。

Ⅲ. 会員主体の運営体制づくり

会員主体の協議会運営のため、以下の取り組みを実施した。

1. 会員交流の促進

【会員交流会】

全会員が交流する機会として実施。「メセナアワード 2010」でメセナ大賞を受賞した中村ブレイス株式会社代表取締役の中村俊郎氏による講演会と全体ミーティング、懇親会を行った。

- 日時：9月15日(木)15:00～18:00
- 会場：アサヒグループ本部ビル
- プログラム
 - 特別講演会「石見銀山の麓・大森の地に根ざした社業と文化支援」
講演：中村ブレイス(株) 中村俊郎代表取締役
 - 全体ミーティング～会員主体の協議会運営を目指して～
キックオフミーティング 発表：加藤種男理事
 - 懇親会



懇親会の様子

【視察】

セミナー事業や運営企画委員会と連動し、メセナの現場を訪れる視察を行った。

- ① 「印刷文化に触れる—印刷博物館フィールド視察」(4月26日)
- ② 「みる・きく・やってみる。京都のメセナ拠点を巡る2日間」(7月22-23日)
ワコール、KCI、京都ブライトンホテル、アサヒビール大山崎山荘美術館
- ③ 「世界遺産・石見銀山大森町をめぐる2日間」(10月14-15日)
中村ブレイス(なかむら館、メディカルアート研究所)、石見銀山遺跡(大森町の町並み、世界遺産センター)、出雲大社、島根県立古代出雲歴史博物館

【会員向けメールマガジン発信】

7月より、会員向けのメールマガジンを刷新。協議会が主催する各種催しの案内や報告レポートなど、毎月初めに約1,500名に配信している。

【会員ネットワーキンググループの発足】

会員相互の交流・連携の強化をはかるため、情報交換・相談・研鑽などが恒常的に行える場を設けるべく、会員ネットワーキンググループを9月に発足した。今後の企画・運営については、ネットワーク幹事が主体となって推進する。

2. 推進組織の発足

2011年度下半期に、会員ネットワーキング、部会、ワーキンググループを発足させ、事業運営と会員相互のネットワーク強化に取り組んだ(◎:部会長/グループリーダー、○:サブリーダー)。

【会員ネットワーキング】(1回)

会員相互の交流・連携強化を目的とし、情報交換・相談・研鑽等を恒常的に行える場を設ける。既存の会議や各事業に関連つけた会合を開くほか、会員自らのメセナ活動にかかわる日常的な課題について話し合うなど、恒常的に集う場・出会う場を設けて、相互のネットワークづくりに貢献する。

宮田昌尚(朝日新聞)、○飯島健(新国立劇場運営財団)、岡部三知代(竹中工務店)、
○宗村泉(凸版印刷)、◎星久人(ベネッセ)、佐藤武司(ライトニング)、菅沼比呂志(リクルート)、
天坊真彦(リソー教育)、森本智子(ワコール)

【大賞部会】(5回)

メセナ活動に取り組む企業・企業財団等を励ますとともに、社会からのメセナに対する関心を高めることを目的とする顕彰事業「メセナアワード」の運営を担う(①運営方針の検討・決定、②応募案件の推薦・調査協力、③応募案件の調査・検討、選考会への推薦、④選考会運営(部会長のみ)、⑤贈呈式の運営)。

◎澤田澄子(キヤノン)、佐々木亮(サントリー芸術財団)、岡田恭子(資生堂)、
丹保有充(損保ジャパン)、君島由子(第一生命)、沖津充男(電通)、清水義昭(トヨタ自動車)

【調査研究部会】(1回*)

*調査研究部会として発足する以前に、調査部会1回、研究部会2回を開催
企業・企業財団によるメセナ活動の実態や傾向、意識等を調査し、広く社会に紹介するとともに、メセナ活動を行う企業・実務担当者が求める情報を提供する。あわせて、企業メセナを推進する上での課題や、芸術文化支援の環境整備にかかわる問題を研究する。

友野宏章(アサヒビール)、相澤麻希子(花王)、酒井香世子(損保ジャパン)、吉村真也(TOA)、
山本真由美(トヨタ自動車)、真貝昭広(日本経済新聞)、南野嘉治(日本生命)、高井健吉(富国生命)、
岡崎真理(三井住友銀行)

【助成ワーキンググループ】(1回)

94年より運営する「助成認定制度」の改変、および「GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)」をはじめ、今後協議会に求められる助成制度、ファンドのあり方を検討し、制度設計を行う。

市村作知雄(ANJ)、根本ささ奈(アサヒビール)、樋口昌樹(資生堂)、片山正夫(セゾン文化財団)、
高萩宏(東京都歴史文化財団)、吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)、大野マリ(日本オラクル)

【機関誌ワーキンググループ】(1回)

協議会機関誌『メセナノート』の特集テーマや寄稿者、媒体活用方法や展開などを検討する。

室井俊二(板室観光ホテル大黒屋)、山辺清和(NEC)、石井智子(サントリー)、山内美根子(資生堂)、
今泉雅文(新建築社)、舟橋香樹(大日本印刷)、坂村道子(フェリシモ)

●その他随時ワーキンググループを発足

協議会のパンフレット制作やアニュアルリポートの制作、協力・連携活動の検討に際しては、その都度、運営企画委員会にてワーキンググループの発足を提案し、会員メンバーに参加を呼びかける。

IV. 2011 年度の事業概要

公益社団法人化に際して、「協議会の社会的役割の強化と、抜本的な機能強化」を目標に掲げた 2011 年度は、個々の事業においても、推進体制の再編やミッションの再確認、中長期展望の議論など、初心に立ち返って改革に取り組む年となった。

最大の変化は、公益法人としての社会への寄与と同時に「会員の、会員による、会員のための協議会」との原点に立ち返り、事業運営に会員の意見や要望をさらに反映すべく、新たに助成事業と機関誌事業に、会員メンバーからなるワーキンググループを発足し、事務局と緊密な連携のもとに事業推進する体制を整えたことである（メセナアワードは従来の大賞部会を継続）。長年継続している調査事業や助成認定制度は、現在の社会のニーズを反映するために、ワーキンググループを中心に内容の抜本的な改革に着手した。

東日本大震災の発生によって、1994 年に導入した助成認定制度以来の大型新規事業ともいえる「GBFund」を開始したことも、2011 年度の特徴であった。

次の 6 つの公益目的事業について、計画に対する実績および成果を報告する。

1. 促進普及事業	1) セミナー事業、 2) 広報事業
2. 情報集配仲介事業	1) 発信事業『メセナ note』発行、 2) 情報システム事業、 3) 資料収集事業、 4) 出版事業、 5) コーディネート事業
3. 調査研究提言事業	1) 調査・研究事業、 2) 提言・提案事業
4. 協力連携事業	1) 地域メセナ組織交流・連携事業、 2) 国際交流・協力事業
5. 顕彰事業	1) メセナアワード事業
6. 助成事業	1) 助成認定事業、 2) 震災復興支援事業

1. 促進普及事業

1-1. セミナー事業

【計画】 会員のスタディとしてのセミナーも行いつつ、関心の高いテーマも実施し、参加層を一般に拡げてメセナの普及に資する。会員企業・団体との共催や主催企画の運営に会員の協力を仰ぐなどセミナー事業を通じた会員との連携強化や、内容について協議会事業との連動を図る。

- 2011 年度は、企業メセナの多様な現状と現場を知ることが重視し、協議会だからこそできる企画に注力した。9 月に横浜で「よこはまトリエンナーレ」と連動して 4 週間連続で行ったセミナー (No.3) は、「創造都市」戦略や社会貢献活動に対する一般の関心が高まる中、企業メセナの新たな関心層に現場の実情を踏まえた情報を提供した。
- 外部機関との共催 (No.3、5) も実践し、従来の協議会セミナーとは異なるリソースやネットワークを参加者に提供、協議会事業にもそれらをフィードバックできた。フィールド視察 (No.1、2、4) では会員各社に協力いただき、参加者の満足度の高いセミナーを実施することができた。
- 一方、協議会が主体的にテーマ設定する主催セミナー、収益性の高いセミナーは実施に至らなかったため、次年度に向けて推進体制を強化する。

【各回開催状況】

※敬称略

<p>【2011-No.1】 ※会員限定</p>	<p>「印刷文化」に触れる—印刷博物館フィールド視察」 <ul style="list-style-type: none"> • 実施日:4/26(火) • 視察先:凸版印刷(株)印刷博物館(東京都文京区) • 内容:館内ツアーと説明:樺山紘一(印刷博物館館長)、緒方宏大(同課長) • 参加者:19名(定員20名) </p>
<p>【2011-No.2】 ※会員ネットワーク事業と連携実施</p>	<p>「みる・きく・やってみる。京都のメセナ拠点を巡る2日間」 <ul style="list-style-type: none"> • 実施日:7/22(金)-23(土) • 視察先:京都服飾文化研究財団(KCI)、幸和館、京都ブライトンホテル(以上京都府京都市)、アサヒビール大山崎山荘美術館(京都府乙訓郡) • 内容:京都服飾文化研究財団(KCI)見学、「幸和館」見学(※運営企画委員会開催)、京都ブライトンホテル「第16回京都リレー音楽祭」観賞、アサヒビール大山崎山荘美術館「かんさいいすなう」展覧会见学と、「きりこ」ワークショップ参加 • 参加者:20名(定員20名) </p>
<p>【2011-No.3】 ※「よこはまトリエンナーレ」と連動し、BankART1929と共催</p>	<p>新・港村スーパースクール「メセナを知る、メセナを語る—アートでつながる地域・市民・企業」 <ul style="list-style-type: none"> • 実施日:9/6、13、20、27(いずれも火曜日) • 会場:新港ピア BankART Life III 新・港村会場内(神奈川県横浜市) • 参加者:21名(定員20名) ■第1回「企業と社会の関わりとその変遷～富士ゼロックスの社会貢献活動とメセナ」(企業メセナの20年、富士ゼロックスのメセナ事例) ゲスト:富士ゼロックス 滝川潔 ■第2回「ザ・ヨコハマの地域メセナ」(地場企業経営者の視点から見た横浜のアートを通じたまちづくりの現状と課題、元町商店街の取り組み) ゲスト:近沢レース店 近澤弘明 ■第3回「コラボレーションによるメセナ」(協働によるアートプロジェクトの展開、横浜ランデヴープロジェクトの取り組み) ゲスト:ワコールアートセンター 岡田勉 ■第4回「クリエイティブシティ・ヨコハマとメセナ」(横浜における本業を通じたクリエイティブな取り組み、食材ピクトグラムによる社会貢献) ゲスト:大川印刷 大川哲郎 </p>
<p>【2011-No.4】 ※会員ネットワーク事業と連携実施</p>	<p>「世界遺産・石見銀山と大森町をめぐる2日間」 <ul style="list-style-type: none"> • 実施日:10/14(金)-15(土) • 視察先:中村ブレイス(なかむら館、メディカルアート研究所)、石見銀山遺跡(大森町の町並み、世界遺産センター)、出雲大社、島根県立古代出雲歴史博物館 • 参加者:11名(定員25名) </p>
<p>【2011-No.5】 ※国際交流基金、トーキョーワンダーサイト(東京都歴史文化財団)との共催で、第3回を企画・運営</p>	<p>「AIR! AIR! AIR! 海外でステップアップを目指せ! <ノウハウ編>」 <ul style="list-style-type: none"> • 実施日:11/2、11/15、12/20 • 会場:トーキョーワンダーサイト青山:クリエイター・イン・レジデンス、国際交流基金 JFIC スペース[けやき] • 参加者:各回53名、51名、66名(定員各回40名) ■第1回「申し込み・プレゼンテーション編」 ゲスト:渡邊康太郎(タクラム・デザイン・エンジニアリング)、宮津大輔(アート・コレクター)、吉野律(アジア・カルチュラル・カウンスル)、家村佳代子(トーキョーワンダーサイト) ■第2回 評価編 ゲスト:伊藤千枝(珍しいキノコ舞踊団)、大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所)、久野敦子(セゾン文化財団)、今村有策(トーキョーワンダーサイト)、菅野幸子(国際交流基金) ■第3回 フェンドレイジング編 ゲスト:鈴木なを子(トヨタ自動車)、樋口昌樹(資生堂)、八木良太(アーティスト)、岡部美紀(国際交流基金)、荻原康子(企業メセナ協議会) </p>

1-2. 広報事業

【計画】 理事長をはじめ協議会幹部と記者の懇談会を実施し、関係強化を図るとともに、ニュースリリース等による継続的な情報発信を行い、企業メセナのメディア露出の拡大に結び付ける。

- とりわけ GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)について、新聞を中心に多くのメディアに取り上げられた。取材(来局・電話)も多数あり、うち1件は福地理事長へのインタビュー記事として大きく掲載された。読売新聞の社説に取り上げられたり、各種ソーシャルメディアでも機会あるごとに言及されるなど、大きな反響が続いた。記者懇談会は開催に至らなかったが、GBFund 助成先の紹介や被災地の文化復興に関する情報提供など、個別の対応を行うことでメディアとの関係構築に努めた。
- 「メセナ アワード 2011」は、地場企業の受賞が多数あったことから、通信社の配信記事以外に、地方紙や主要紙地方版オリジナルの記事が例年以上に掲載された。
- ソーシャルメディアの展開にも力を入れた。20周年事業に関連して始めた Twitter を、協議会全体の広報ツールとして本格的に活用開始。フォロワーが4倍に増加し、1000名を超えた(2011年12月)。また、海外向け発信を念頭に Facebook もスタートし、Twitter とも連動させ、新たなメセナ関心層の開拓に努めた。

【プレスリリースによる情報発信】

No.	配信日	リリースタイトル
1	1/28	多様性のある豊かな社会創造に寄与するために―「公益社団法人企業メセナ協議会」に移行
2	3/24	「東北関東大震災 芸術・文化による復興支援ファンド」―被災された人々の心を芸術・文化で支える活動、被災地の文化再生・芸術活動のための支援金を募ります―
3	4/5	「メセナ アワード 2011」芸術文化の振興に貢献した企業・企業財団の活動を5月31日まで募集
4	4/19	GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)第1回助成活動を決定
5	5/6	GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)第2回助成活動を決定
6	6/21	GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)第3回助成活動を決定
7	8/11	GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)第4回助成活動を決定
8	10/4	「メセナ アワード 2011」受賞企業・活動決定
9	12/20	GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)第5回助成活動を決定

※掲載実績:公益社団法人化3件、メセナ アワード64件、GBFund40件(2011年12月末に確認分)

【取材対応等】

対応日	媒体	内容	掲載日
5/11	日本経済新聞	文化の被災状況について。取材先紹介(GBFund 助成活動)	来局 5/21
5/17	毎日新聞	福地理事長インタビュー(企業メセナ、GBFund について)	来局 6/11
	産経新聞	福地理事長の連載寄稿(第2回:6/22がメセナ関連)	執筆 6/22
6/30	日本経済新聞	GBFund の現状ヒアリングと、取材先紹介(GBFund 助成活動)	来局 7/30
7/4	朝日新聞	同上	来局 8/13、14
8/9	産経新聞	同上	来局 9/2
11/8	『JOYO ARC』	特集テーマ「文化・芸術は震災後の希望の光となるのか」(常陽地域研究センター)について、GBFund を中心に	来局 2012年1月号
12/19	読売新聞	日本の助成制度、アーツカウンシルについて	電話 12/19

その他、取材・電話取材15件程度

2. 情報集配仲介事業

2-1. 発信事業

『メセナ note』発行

【計画】 協議会広報ツールとして各種催しの報告、特集テーマのセミナー企画化、トップインタビュー等コンテンツのウェブ掲載など他事業との一層の連携を図る。また、現在 10 社にご協賛をいただいているが、さらに多くの会員に協賛いただけるようお願いしていきたい。

- 協議会機関誌『メセナ note』の 68～71 号を次の内容で発行。協議会事業をクローズアップし、東日本大震災の緊急特集を組むなどタイムリーなテーマ設定に努めた。会員はじめ年間購読者、協議会関係者(年度初回)や図書館等に送付するほか、協議会事業で配布するなど、協議会の広報ツールとしても活用した。
- 特集テーマや寄稿者の選定等に、メセナの現場担当者の声と新鮮な視点を入れていくため、会員企業をメンバーとする「機関誌ワーキンググループ」を 11 月 4 日にスタート。現状の内容や今後の方向性について意見交換した。
- 前年より継続の 10 社に加え、新たに 2 社から年間協賛をいただいた(対象は 69～72 号)。

【『メセナ note』概要】

体裁	A5 判・32 頁、2 色刷り
発行頻度	季刊(3 月、6 月、9 月、12 月)
発行部数	3,500～4,500 部
読者層	協議会会員:約 800 部、年間購読者:約 400 部(一般 42%、芸術文化関係者 26%、企業 23%、大学・研究機関 6%、行政 3%)、その他文化施設・セミナー等で配布
協賛社 (五十音順)	アサヒビール/板室観光ホテル大黒屋/近畿労働金庫(69・70 号)/サントリーホールディングス/資生堂/損害保険ジャパン/第一生命保険/大日本印刷/トヨタ自動車/富士ゼロックス/ベネッセホールディングス/ワコール

【2011 年度発行号(68～71 号)概要】

※敬称略

68 号(3/15 発行) 特集: 創造力が社会をひらく	
巻頭言:	川口大輔 ([株]ヒューマンバリュー 主任研究員)
アート考/メセナ考	カフェ的会話から生まれる未来
特集	特集寄稿 中谷巖 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング 理事長、不識塾塾長 一体化する「企業経営」と「メセナ」
	「メセナフォーラム 2010<創造力が社会をひらく>企業メセナの深化と実践 これからの芸術・文化」抄録 • シンポジウム「創造的で活力ある社会のために」 • 「感じて、語る、メセナ・カフェ ～アートとのかかわりを考える一日～」
トップインタビュー	TOA(株)代表取締役社長 井谷憲次 音を創造する企業として自らを表現するメセナ
アROUND・メセナ	吉川由美 (ENVISI 代表・プロデューサー) 南三陸町・きりこ通りプロジェクト 名もなき女性たちが海辺の町に起こしたアートの波
メセナ散歩	六花亭製菓 50 年を迎えた児童詩誌『サイロ』
文化政策 ウォッチング	荻野達也 (fringe プロデューサー) 劇場法(仮称)の議論に必要な視点
連載コラム	いとうせいこう (作家、クリエイター) 変化④ 新しいモデル

69号(6/15発行) 緊急特集: 東日本大震災、文化をめぐる動き	
巻頭言: アート考/メセナ考	アート考/メセナ考 岩淵潤子 (慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授) 「3.11—私たちに課せられた 記憶のDNAを未来に伝える義務」
特集	震災発生から2カ月間、芸術・文化の現場でなにが起こったか
	東日本大震災にかかわる芸術・文化関連の参考情報リンク
	芸術・文化による震災復興支援を目指し、企業メセナ協議会「GBFund」設立
	特集寄稿: 加藤種男 ([公社]企業メセナ協議会理事/[財]アサヒビール芸術文化財団事務局長) 「ともかく歩き出すために、GBFund」
トップインタビュー	荻谷道郎 ([株]ニコン 代表取締役会長) 写真表現に先駆ける企業として信頼培う
アROUND・メセナ	島田 誠(ギャラリー島田代表/[公財]神戸文化支援基金代表理事) 「<アート・エイド・神戸>から<アーツ・エイド・東北>へ—地下水脈が潤す文化の土壌」
メセナ散歩	東日本鉄道文化財団 「鉄道がつなく地域文化支援」
文化政策 ウォッチング	山岡義典 ([特]日本NPOセンター代表理事) 「前進するか、NPO税制」
連載コラム	小山薫堂 (放送作家/脚本家) 拍手のしかた① 「“kizuna”を世界共通言語に」

70号(9/15発行) 特集: メセナにおけるプロボノの可能性	
巻頭言: アート考/メセナ考	アート考/メセナ考 和合亮一 (詩人) 「福島で涙を流して拳を握りしめて詩を呟く」
特集	メセナにおけるプロボノの可能性
	メセナ+アート+プロボノを考えるための参考情報
	特集寄稿: 福井健策 (弁護士<日本・ニューヨーク州>/日本大学芸術学部客員教授) 「法律家のプロボノ活動とアート支援」
トップインタビュー	岩佐実次 ([株]リソー教育 代表取締役会長) 「子どもの個性を伸ばし、多様性認め合う未来を」
アROUND・メセナ	佐藤武司([株]ライトニング 代表取締役/プロデューサー) 「木造仮設住宅を被災地に！—more treesの「LIFE311」の取り組み」
メセナ散歩	宮井 「ふるしきで世界へ発信 包む・覆う文化の再発見」
文化政策 ウォッチング	片山正夫 ([公財]セゾン文化財団常務理事) 「<日本版アーツカウンシル>を考える」
連載コラム	小山薫堂 (放送作家/脚本家) 拍手のしかた② 「企画というサービス」

71号(11/25発行) 特集: メセナ アワード 2011	
巻頭言: アート考/メセナ考	小曾根 真 (ジャズピアニスト) 「生きて、生かされて」
特集	・メセナ大賞: 千島土地株式会社
	・酒唄里づくり賞: 朝日酒造株式会社
	・演劇ともしび賞: 大阪ガス株式会社
	・動く技術遺産賞: トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館
	・文化の枕木賞: 公益財団法人東日本鉄道文化財団
	・解体新生賞: 油機エンジニアリング株式会社
	・文化庁長官賞: 六花亭製菓株式会社
	・受賞企業プロフィール
	特集寄稿: 鷲田清一 (哲学者) 「リスポンシビリティという感覚で」
トップインタビュー	芝川能一 (千島土地[株] 代表取締役社長) 「メセナ アワード 2011」メセナ大賞受賞 「クリエイティブな活動の集積がまちの価値を変える」
アROUND・メセナ	松岡市郎(北海道・東川町長) 「疎をいかにすく 適疎な町>、疎に文化価値を付加する<価疎な町>」
メセナ散歩	宗次ホール×ヤマザキマザック美術館 「新しいアート拠点から広がるまちづくり」
文化政策 ウォッチング	栗原祐司 (文化庁文化財部美術学会課長) 「文化財レスキュー活動の展開と今後の課題」
連載コラム	小山薫堂 (放送作家/脚本家) 拍手のしかた③ 「<ふくあじ>を探して」

2-2. 情報システム事業

【計画】 協議会公式ウェブサイトリニューアルを早期に推進し、『メセナ note』のコンテンツのウェブ展開等に取り組む。「メセナ活動実態調査」の内容変更にとまない、2012 年度からの「メセナビ」の再設計を検討する。

- 協議会公式ウェブサイト(<http://www.mecenas.or.jp/>)で、会員企業・団体のメセナ活動をはじめ、メセナや芸術文化の基盤整備に関連する情報を発信した(月間ページビュー:約 8 万件)。長年の課題であったサイトリニューアルについては、低コストでの作成・管理が可能な WEB サイト更新システム「Jimdo」を利用し、従来のサイトコンテンツをよりアクセスしやすい形に直し、12月22日に試行版として公開した(完成版は2012年度上半期中に正式公開)。
- ブログは、読み手との距離感の近さを意識し、セミナーや機関誌の新刊告知等に活用した。
- 企業メセナについて幅広い層の関心を喚起するために、一般メールマガジン「メセナ What's Up」を配信した(不定期。協議会会員、各事業でのつながりのあった非会員企業、芸術文化団体等、協議会のステークホルダー約 3,200 人が登録)。
- GBFund の広報を図るため、2010 年度からスタートした twitter (http://twitter.com/mecenas_jp)に加え、海外を視野に入れて Facebook ページも立ち上げた(100 件を超える「いいね！」投票)。協議会の広報戦略に沿ってより効果的で魅力的な情報発信を図るための、情報発信媒体それぞれの特性を試行する年となった。
- 『メセナ白書』(1990～2000 年発行)を引き継ぐ形で約 10 年にわたって公開してきた「メセナビ」は、この間の情報環境の著しい変化により、調査研究事業(メセナ活動実態調査)と企業のメセナ活動の情報発信形態として必ずしも最善ではなくなったことから、次世代の効果的な情報発信方法を検討。調査研究部会で議論中の調査方法の見直しを経て、2011 年調査以降はよりシンプルでわかりやすい形式での公表ができるよう、技術的な側面を検討している。

2-3. 資料収集事業

【計画】 企業メセナ、社会貢献、文化政策、アートマネジメント、協議会活動等に関連する資料を収集し、それらを一般公開するメセナライブラリー(事務局内)のさらなる環境整備に努める。

- 企業メセナ・社会貢献、CSR 活動および文化政策、アートマネジメント等に関する情報収集活動を行い、レファレンス対応も積極的に行いました。専門ライブラリーとしての認知度も徐々に増し、今年も各種アンケートに回答しました(「専門情報機関総覧 2012 年版」調査[専門図書館協議会]、4 月末回答)、「専門図書館における資料・情報提供サービスに関わる職務内容調査」[明治大学文学部、5 月末回答]。資料を手放す団体から、書籍の寄贈も受けました。
- 2012 年 3 月の引っ越しに伴うライブラリー移転の準備として、増加する蔵書の対策と資料の整理を行いました。メセナ関連記事のスクラップについては、専門業者によるクリッピングを中心としてライブラリーで公開した。また、閉架資料を精査し資料の整理に努めました。

【ライブラリー概要】

公開時間	月曜～金曜日、11:00～17:30(要電話予約)
開架資料	<ul style="list-style-type: none"> 和書・報告書: 1,433 冊(企業と文化・社会貢献、文化行政・文化政策、アートマネジメント・文化経済学、公益法人・NPO・文化税制、名簿・年鑑・一覧) CSR 報告書: 224 冊 洋書: 562 冊(14 カ国の文化政策、アートマネジメント関連) 企業・企業財団の資料: 約 1,052 企業・団体分 新聞・雑誌掲載記事(1989 年 12 月～2011 年 7 月) 定期刊行物: 世界のメセナ組織、行政、芸術団体、研究機関、NPO、他 映像資料: 約 364 点(メセナニュース、主催セミナー(1998-2001 年)、贈呈式、各社のメセナ他)
寄贈図書	文化経済学会<日本>事務局より、和書 7 冊、洋書 2 冊(12 月 1 日受入)
年間利用者数	21 名(大学・大学院生、企業、調査研究機関等)

2-4. 出版事業

【計画】 既存出版物の広報・販売を行う。

- 機関誌『メセナ note』の年間購読者の維持・管理とバックナンバーの頒布、既刊発行物の在庫管理と広報、販売を行った。設立 20 周年に際して前年度末に発行した『メセナを知る本』は、10 周年に発行した『なぜ、企業はメセナをするのか』に代わる入門書籍として、販売に注力した。
- 販売数が多かったのは、『メセナを知る本』と『企業メセナへのアプローチガイド(メセナセミナーシリーズ No.10、2007 年発行)』で、それぞれ、企業メセナの概要を把握したい方、協賛や企業とのパートナーシップについて学びたい方が購入する傾向が見られた。
- 従来は在庫切れのためコピーの実費販売を行ってきた『阪神・淡路大震災 芸術文化被害状況報告書』は、東日本大震災発生後に被災地の文化施設関係者にニーズに対応すべく、関係者と協議のうえ、PDF を作成し協議会ウェブサイト上で無料ダウンロードできるようにした。

【年間書籍売上件数】

合計: 135 冊

(内訳)

- 『メセナセミナーシリーズ』 66 冊(うち「No.10」33 冊)
- 『メセナを知る本』 50 冊
- 『なぜ、企業はメセナをするのか』 5 冊
- 『メセナ白書シリーズ』 11 冊
- 「阪神・淡路大震災 芸術文化被害状況報告書」 1 冊
- 「研究部会 2003 年度報告書: 企業メセナの新たな展開」 2 冊



2-5. コーディネート事業

【計画】会員企業や自治体、教育機関等の要請に応じて、メセナに関する相談やアドバイス、講師の派遣など、具体的なプログラム開発や企画協力を受託事業としてコーディネートする。時代に要請にあった創造的なメセナプログラムの開発を行うため、局内体制を整えて新規コーディネート案件の開拓に取り組む。

- 2011年度は、6企業・団体から受託した7件のコーディネート事業に取り組んだ。うち新規案件は4つあり、コンサルティング要素の強いものや、語学力をいかしたもの等、従来にはなかった領域に受託内容が広がりをみせた。
- コーディネート事業の窓口担当を新たに配置し、事業全体の情報集約と局内スタッフの連携を可能にする体制を整えた。受託に際しての基準作りや対外的なPRについては次年度持ち越しとなったが、本年度の経験をいかして早急に整備を進め、事業拡大に向けて取組みを強化する。

【2011年度の受託案件】

※敬称略

依頼元	受託内容
トヨタ自動車	<p>「トヨタ・アートマネジメント」プログラムのコーディネート アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」(www.nettam.jp)の企画・運営、月例更新(コンテンツ制作)、SNSによる広報。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 月間アクセス:平均 53 万ページビュー(PV) (前年度約 40 万件) • 累計アクセス:約 1875 万 PV (2004 年 10 月～2011 年 12 月)
アサヒビール 芸術文化財団	<p>すみだ川アートプロジェクトの企画・推進 2089 年まで 80 年間続く SRAP の 3 年目は「江戸を遊ぶ」をテーマに、大田南畝を手がかりとして実施。夏の期間を中心に多彩なアーティストや市民が集う催しを連日展開。これら年間を通じて行われる催しの企画・運営をアサヒビールおよび同財団と連携して行った。</p> <p>① 「Oh! Hanami pARTy」 実施日:4 月 2 日(日) 会場:アサヒ・アートスクエア</p> <p>② 「江戸を遊ぶ:Nanpo×連」 会期:6 月 19 日(日)～7 月 31 日(日) 会場:アサヒ・アートスクエア、アサヒビール本社ビル 1 階&周辺広場、屋形船@隅田川、牛嶋神社、浅草寺伝法院ほか(東京) 主催:すみだ川アートプロジェクト実行委員会、アサヒビール芸術文化財団 共催:アサヒ・アート・フェスティバル実行委員会、墨田区 特別協賛:アサヒビール 企画協力:企業メセナ協議会 協力:アサヒ・アートスクエア</p> <p>③ 「Oh! Tsukimi pARTy」 実施日:10 月 13 日(金) 会場:アサヒ・アートスクエア</p>




ネット TAM ロゴマーク



「江戸を遊ぶ:Nanpo×連」会場

BankART1929	<p>ヨコハマトリエンナーレ 2011 特別連携プログラム 「新・港村 小さな未来都市」へのブース出展 【新規】</p> <p>「あらゆる国と種類のクリエイターが働く未来都市」というコンセプトで 200 以上の文化・芸術団体が参加し、会期中さまざまなアートイベントが開催された上記プログラムに、主催者の要請を受けて協議会も参加。トリエンナーレ会期中、会場の「仕事場」(=ブース)で、協議会の活動の広報活動を行った。また、主催の BankART1929 と連携し、「スーパースクール」にて企業メセナに関する連続セミナーを企画・運営した(セミナー事業と連携)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 会期:8月6日(土)～11月6日(日) • 会場:新港ピア(横浜市中区新港 2-5) • 主催:BankART1929 • 共催:横浜市文化観光局
アサヒビール株式会社	<p>「アサヒ・アート・フェスティバル(AAF)世界ネットワークプロジェクト」 東北スタディツアーおよびシンポジウムのコーディネート 【新規】</p> <p>AAF10 周年を記念特別プロジェクトとして、アジア各国のアート分野で活動する若手リーダー7 名を招聘し、被災地および東北で「文化による地域振興」を実践する現場の視察と、八戸と東京でのシンポジウム(文化による地域振興の国際ネットワークの可能性について意見交換)を実施するにあたり、英語が必要な業務を受託。ツアーに同行し、招聘者と主催者・関係者のコミュニケーション部分をサポートした。</p> <p>① 招聘者 Indra Ameng(インドネシア)、Bani Haykal(シンガポール)、Kim Kang(韓国)、Paphonsak La-or(タイ)、Lee Chun Fung(香港)、Lew Pik-Svonn(マレーシア)、Jaime Pacena II(フィリピン)</p> <p>② 東北ツアー 実施日:8月14日(日)～21日(日) 訪問先:プロジェクト FUKUSHIMA! (福島市)、「生きる”博覧会 2011」(宮城県南三陸町)、せんだいメディアパーク(仙台市)、国際芸術センター青森、かれいざわアート ICHIBA(青森県)、八戸ポータルミュージアム「はっち」(八戸市)</p> <p>③ シンポジウム • 八戸シンポジウム:8月19日(金)、八戸ポータルミュージアム • 東京シンポジウム:8月21日(月)、国際交流基金 JFIC ホール「さくら」 主催:アサヒ・アート・フェスティバル実行委員会 助成:財団法人アサヒビール芸術文化財団 特別協賛:アサヒビール株式会社 協力:企業メセナ協議会、アート NPO リンク、BankART1929</p> <div data-bbox="421 1554 903 1861" data-label="Image"> </div> <p>八戸シンポジウムの様子</p>

<p>東京都歴史文化財団・東京文化発信プロジェクト室</p>	<p>① Tokyo Art Research Lab 連続ゼミ「アートプロジェクトを評価するために～評価のくなぜ?」を徹底説明」の企画・運営、記録集作成</p> <p>2010 年度に受託した連続ゼミの<u>後半 2 回</u>の企画・実施と、ブログの運営、全講座の記録集作成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゼミ日程：2010 年 7 月～2011 年 2 月。毎月第 3 週の火曜日 19～21 時(7/13、8/3、9/14、10/12、11/16、12/14、<u>1/11</u>、2/15) 会場:Tokyo Artpoint Project Room 302(アーツ千代田 3331 内) 主催:東京都、東京文化発信プロジェクト室(東京都歴史文化財団) 共催:公益社団法人企業メセナ協議会 内容(2011 年度分): <ul style="list-style-type: none"> 第 7 回「ロールプレイング・ディベート」、第 8 回「プレゼンテーション&講評」 記録集『Tokyo Art Research Lab 評価ゼミレクチャーノート』(2011 年 3 月発行)を作成。ダウンロードフリーのファイルを TARL と企業メセナ協議会のウェブサイトに掲載。  <p>記録集『評価ゼミレクチャーノート』</p> <p>② Tokyo Art Research Lab 集中ゼミ「アートプロジェクトを評価するために～評価のくなぜ?」を徹底説明 ver.2」の企画・実施 【新規】</p> <p>「評価」関連講座の開催を 2010 年度に続き受託。前年度の連続ゼ(上記①)のバージョン 2 として、半日集中講座の企画立案、講師選定、資料作成、当日の進行を担当した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催日:12 月 3 日(土)13:00 - 18:00 会場:東京文化発信プロジェクト ROOM 302(東京都千代田区[3331 Arts Chiyoda 3F]) 内容:①ミニワークショップ(疑問・課題の洗い出し)、②トークセッション ゲスト:太下義之(三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター 主席研究員/センター長)、石綿祐子(AAF [アサヒ・アート・フェスティバル] 実行委員 検証担当) 主催:東京都、東京文化発信プロジェクト室(東京都歴史文化財団) 共催:公益社団法人企業メセナ協議会
<p>東山アーティスト・プレイスメント・サービス実行委員会(京都市文化市民局)</p>	<p>若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり「東山アーティスト・プレイスメント・サービス(略称:HAPS)事業の事業計画書・予算書作成、および評価システム策定に関するコンサルティング 【新規】</p> <p>HAPS は京都市が「京都文化芸術都市創出計画」(2007 年 3 月)で「5 つの京都先行プロジェクト」として提示した「新たな文化芸術を創出する若き人材の育成」プロジェクトの一環として実施する新規事業。京都在住の若手芸術家の創作活動を支援することで活力あふれる都市の創生を目指す。2012 年 1 月の HAPS 開始に先立ち、事業計画書・予算書の効果的な作成と、プロジェクト評価のシステム策定についてコンサルティングを行った(8 月)。</p> <p>【HAPS 概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営主体:東山アーティスト・プレイスメント・サービス実行委員会(委員長:遠藤水城)、京都市文化市民局 サービス内容:居住物件の仲介、制作の場の提供、発表機会の創出、情報集配・サービス提供

3. 調査研究提言事業

3-1 調査・研究事業

【計画】「調査・研究」機能の強化に向け、2011年度は足場固めの1年とする。これまで協議会の各事業を通じて蓄積した情報を把握・一元化して、機能しやすいように整えるとともに、今後3カ年の調査活動計画を立案する。現行の「メセナ活動実態調査」は抜本的に刷新を図り、本調査にもとづき制作・公開しているオンラインデータベース「メセナビ」も見直す。“新しい「研究機能」のあり方(=メセナの現場にとって役に立つ「研究」)の模索”をテーマに、研究部会の枠組みの見直しと、これまでの研究成果の整理に取り組む。

1) 新たな調査研究機能の枠組み検討

- 従来は「調査」(1990年～)、「研究」(1999年～)とそれぞれに部会を設けて推進していたが、調査・研究部会合同会議や運営企画委員会での議論(3/29、4/18、4/26)を経て、両事業を統合した。9月に発足した「調査研究部会」では、主に「メセナ活動実態調査」の新たな方向性や、メセナの評価など、今後の展望を探るべく意見交換を行った。

2) 「メセナ活動実態調査」について

● 2010年度「メセナ活動実態調査」の報告書発行

「2010年度メセナ活動実態調査」の結果報告書を3月に発行し、協議会ウェブサイトにてPDFファイルで公開した(内容:調査結果、「メセナ活動実態調査」で読み解くメセナ20年、「社員参加」メセナ活動の印象に残ったエピソード)の記述回答集ほか)。

● 2011年度「企業財団のメセナ活動調査」の実施と分析

4月～5月、隔年実施している「企業財団のメセナ活動実態調査」を310団体を対象に実施し、207団体から回答を得た。公益法人制度改革や東日本大震災の影響を尋ねた時事設問では貴重な回答が寄せられ、中でも震災後の事業への影響や、震災復興におけるアートの役割、被災地に向けた暖かいコメント等の記述回答に特徴があった。調査結果は「2011年度企業財団のメセナ活動実態調査」としてまとめ、PDFを公開。プレスリリース配信、報告会開催に向けて準備した(実施は2012年)。

● 「メセナ活動実態調査」に関するヒアリング調査の実施

企業環境の変化やIT技術の発達による調査手法の多様化に伴い、1990年来毎年実施してきた「メセナ活動実態調査」の内容と手法の見直しに着手した(そのため2011年度調査は実施せず)。調査研究機能の向上を目指して抜本的な刷新を図るべく、7月～9月、調査の専門家を含む企業人11名にヒアリングを行い、従来の調査についての客観的な意見や助言を得た。協議会が実施する調査の強み、調査手法、公表のあり方、連携できる調査など、多岐にわたる見解が収集できたので、これらを今後の調査研究事業にいかしていく。

【部会開催状況】

第1回部会	11/18(金)	報告案件のほかに、議題:①「2012年度メセナ活動実態調査」調査項目の検討、②調査方法の考察、③調査対象の拡大について、④「時事トピックス調査」などを話し合った。
-------	----------	---

※4月18日に「調査研究合同部会」、2010年度第4回研究部会を1月18日に開催。

3-2. 提言・提案事業

【計画】 協議会の社会的な役割をさらに強化すべく、ニュートラルな立場をいかして、芸術文化振興のための基盤整備に関する政策を中心に提言(アドボカシー)を行う。

- 従来は「研究部会」を中心に行ってきた政策提言活動については、緊急案件に対応する機動性を確保するために、その機能を事務局長直轄とし、案件の内容に応じてプロジェクトチームを編成するように体制を改めた。
- 日本芸術文化振興会が6月1日に発表した報告書案「文化芸術活動への助成に係る新たな審査・評価等の仕組みの在り方について」に関するパブリックコメントの募集を受けて、意見を提出(6月9日)。諸外国のアーツカウンシルに相当する新たな仕組みの導入に向け、審査・評価等の仕組みのあり方について、①対象分野の早期の拡大と、②現行制度の改変を求めた。

4. 協力連携事業

4-1. 地域メセナ組織交流・連携事業

【計画】 国内各地のメセナ組織交流・連携のサポート体制を強化する。各都道府県にひとつはメセナ組織が存在することを目指し、ネットワーク化を推進する。

- 事務局職員のセミナー出講やシンポジウム出演の機会等をいかし、各地で企業メセナに関する情報提供と、地域の文化団体との交流に努めた。2011年度の主な交流地域は、大阪、沖縄、京都、神戸、別府、横浜等であった。
- 各地でメセナ活動を行う諸団体の連絡会である「全国メセナネットワーク」(加盟18団体)は、発足当初より協議会が事務局機能を担ってきたが、本年度のネットワーク総会は、代表幹事である「よこはま市民メセナ協会」と共同で10月27日に横浜・三溪園にて開催した。総会では、今後は事務局機能を幹事団体が持ち回り担当することが決定し、16年目を迎えた全国メセナネットワークの新たなスタートの年となった。協議会としては今後も加盟団体の一員としてネットワークのさらなる発展に貢献しながら、地域におけるメセナ活動を推進するため、全国各地のメセナ組織や社会創造に取り組む芸術文化団体と、独自のネットワークを構築していく。

4-2. 国際交流・協力事業

1) 国際交流事業

【計画】 海外のメセナに限らず、行政や文化機関など幅広く情報源を見つけるなど包括的な情報収集のための基盤整備を行うとともに、在日大使館文化部、文化関係機関との人的交流により新たなネットワークを構築し、旬な情報を得る。国内メセナ情報について適宜英語で発信するとともに、海外情報について大使館訪問や世界のアワードなどをブログ等で紹介する。

- 在日大使館および関係組織との交流において、英国文化・オリンピック・メディア・スポーツ大臣ジェレミー・ハント氏が来日した際に、ブリティッシュ・カウンシルが主催した懇談会に、福原義春協議会会長はじめ、協議会理事のセゾン文化財団・片山正夫氏やニッセイ基礎研究所・吉本光宏氏など協議会キーパーソンが参加し、日英における芸術・文化振興について意見交換した。事務局からもオブザーバー参加の機会を得た。
- 震災復興の関係で、米国ニューヨークでの「震災復興ドナー会議」に招聘された(7月19～23日、日本国際交流センター(JCIE)・国際交流基金主催)。GBFund や企業メセナ協議会についてニューヨークの文化振興組織、芸術助成財団関係者に知ってもらい、新たなネットワーク構築につながった。
- 海外の関係機関向けに年度末にメール配信を行い、協議会の活動や日本のメセナ情報、震災復興について情報発信した。海外におけるメセナ関連の情報集配や、国内メセナ情報の海外向け発信については実施に至らなかったが、海外向け情報集配のために本年度に立ち上げたFacebook や、ブログ、Twitter 等を活用して次年度は積極的な実施に努める。

2) 協力依頼への対応

- 文化関連機関や教育機関等からの、事務局職員等に対する委員や講師などの派遣要請や催しへの出演依頼に積極的に対応した。近年依頼数が増え、内容も多岐にわたるようになっている。
- アートNPO 等が主催する企画についての後援依頼にも協力した。

【協力対応状況】

※依頼元五十音順

■委員・役員

依頼元	内容(期間・開催日)
財団法人かながわ国際交流財団	第5回21世紀ミュージアム・サミット及び企画準備会議 (2011年11月1日、2012年2月4日、5日)
京都文化ベンチャーコンペティション実行委員会	第5回京都文化ベンチャーコンペティション審査委員会 (2011年9月～2012年2月26日)
独立行政法人国際交流基金	平成23年度国際交流基金地球市民賞選考委員会 (2011年10月31日、12月13日)
埼玉県	平成23年度埼玉県文化活動サポート団体助成事業選考委員会 (2011年5月1日～2013年3月31日)
静岡県	静岡県文化政策審議会委員 (2011年1月15日～2012年1月14日)
財団法人地域創造	「文化・芸術を活用した地域活性化に関する調査研究会・事例検討会 (2011年～2012年、3～4回)
東京都	東京都江戸東京学物館外5施設指定管理者評価委員会

	(2011年7月11日～2010・2011年度評価終了まで)
公益財団法人東京都歴史文化財団	東京文化発信プロジェクト外部評価委員会 (2010年6月～2012年5月1日、年1回)
公益財団法人東京都歴史文化財団	トーキョーワンダーサイト外部評価委員会 (2011年7月1日～2014年6月30日)
特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク	NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク評価委員会 (2011年度～2013年度、年に1～5月に2～3回開催)
株式会社ニッセイ基礎研究所	「アーツコミッション・ヨコハマの助成事業の評価等に関する調査研究」ゲスト委員 (2011年9月29日)
独立行政法人日本芸術文化振興会	文化芸術活動への助成に係る審査・評価に関する調査研究会 (2010年12月28日～2012年3月31日、6回程度)
文化経済学会	文化経済学会(日本)団体監事 (2010年4月1日～2012年3月31日)
文化庁	「くらしの文化」の実態及び振興方策に関する調査研究事業に関わる技術審査
文化庁	平成22年度文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)選考委員 (2011年3月)
文化庁	平成23年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業協力者会議 美術分野 (2011年3月3日～2012年3月31日)
文化庁	文化芸術創造都市の推進事業審査委員会
文化庁	文化芸術の海外発信拠点形成事業の採択事業選択に係る審査など (2011年7月13日～2012年3月31日)
文化庁	諸外国のアーツカウンスルに関する調査研究の委託先選定に係る技術審査
文化庁	平成24年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業協力者会議委員会 (2011年11月28日～2013年3月31日)
文化庁	文化政策の評価手法に関する調査研究事業及び「文化芸術創造都市ネットワーク日本(仮称)」の在り方に関する調査研究事業に係る技術審査専門員 (2011年12月)
横浜市	創造界限形成推進委員会 (2011年9月1日～2015年8月31日)
横浜市	横浜市広報企画審議会 (4月～2012年3月、審議会年2回)
和光市	平成23年度和光市民文化センター指定管理者事業評価委員会 (2011年11月16日、28日、2012年1月上旬)

■講師

依頼元	内容(期間・開催日)
共立女子大学	劇場論 (2011年7月12日)
特定非営利活動法人子ども劇場東京都協議会	子ども文化地域コーディネーター集中講座 (2011年1月8日)
静岡文化芸術大学	「文化政策と法」 (2011年9月26日～2012年3月31日)
株式会社資生堂	「企業メセナ20年の歩みと動向」 (2011年6月29日)
実践女子大学	文化経営論 (2011年12月10日)
社団法人日本芸能実演家団体協議会	芸団協セミナー2011実務担当者向け「芸術団体のためのマネジメント・ゼミナール」 (2月24日)
日本大学	芸術総合講座Ⅰ「アートマネジメント」 (2011年11月11日)
武蔵野美術大学	造形ファシリテーション能力獲得プログラム ワークショップ実践研究Ⅱ (2011年5月20日)

■出演

依頼元	内容(期間・開催日)
神戸商工会議所	「企業広報研究会第136回定例会」(2011年9月26日)
国際舞台芸術交流センター	「TPAM in Yokohama Summer Session」(2011年8月5日)
別府現代芸術フェスティバル 「混浴温泉世界」実行委員会	「混浴温泉世界シンポジウム2011」(2011年11月5日)

■後援

依頼元	内容(期間・開催日)
産経新聞社写真報道局	Save Japan Museum 日本の文化財を守ろう!～東日本大震災写真展～ (2011年4月28日～5月8日)
世界劇場会議国際フォーラム 2011 実行委員会	世界劇場会議国際フォーラム2011 (2011年2月11・12日)
全国アートNPOフォーラム in 鳥取実行委員会	全国アートNPOフォーラム in 鳥取 (2011年3月18～20日)
日本経営クラブ	第18回「世界の美術鑑賞&解説講演」(創立48周年記念行事参加 (4月12日) ※後援・および協力
特定非営利活動法人日本フ ァンドレイジング協会	ファンドレイジング・日本2011～新しいコト、さあ始めよう～ (2011年2月4～6日)
公益社団法人日本ユネスコ 協会連盟	未来遺産運動 (通年継続事業、6月30日～2012年3月末)

5. 顕彰事業

5-1. メセナアワード事業

【計画】 前年度と同様に「メセナアワード 2011」を実施する。顕彰事業で蓄積してきたメセナ事例のアウトプットに努め、セミナーや調査等、他の事業とも連携を図る。なお、最もコストがかかる事業であることから、財政状況に鑑みて運営方法の見直しを行いたい。選考委員・トロフィーとも現態勢が終了する2012年度以降に大胆な改変を行うべく検討に入る。

- 「メセナ大賞」と「文化庁長官賞」の2部門からなる「メセナ アワード 2011」を本年も実施した(文化庁後援)。4月1日から5月末までの募集期間に、全国から94件(88社・団体)の自薦・他薦による応募があった。地域の資源をいかす取り組みや、子どもの創造性や表現力を伸ばす活動、特定の分野やテーマに目を向けた個性的なプログラムなどが多数見られた。
- 大賞部会の協力を得ながら、約3カ月間にわたって応募案件の調査・取材を行い、部会メンバーによる2度の粗よりを経て、9月に実施した2回の選考会で、以下の企業および団体の受賞を決定した(選考委員は下記の通り。任期最終年)。今年は、地域市民と企業が連携し、文化による地域活性(特に地方都市)に励んでいる活動が注目され、芸術文化による社会創造にメセナが寄与している点が選考委員に高く評価された。さまざまな地域の企業が受賞したことも今年の特徴であった。
- 贈呈式は11月25日、スパイラルホール(港区・表参道)にて開催。受賞企業・団体代表者、近藤誠一文化庁長官、メセナ アワード選考委員はじめ、協議会会員等の企業担当者、芸術文化団体、報道関係者など、約270名の参加を得て実施した。

【2011 年度の受賞活動および受賞企業・団体】

【メセナ大賞部門】	
メセナ大賞	千島土地株式会社 「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想」～創造的なまちづくりへの挑戦
酒唄里づくり賞	朝日酒造株式会社 酒蔵を核とする自然保護・文化活動
演劇ともしび賞	大阪ガス株式会社 OMS 戯曲賞による関西の演劇文化支援
動く技術遺産賞	トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館 産業遺産の保存とモノづくり文化の伝承
文化の枕木賞	公益財団法人東日本鉄道文化財団 東日本における地域文化支援
解体新生賞	油機エンジニアリング株式会社 古民家の修復保存と活用
【文化庁長官賞部門】	
文化庁長官賞	六花亭製菓株式会社 50年にわたる月刊児童詩誌『サイロ』の発行

【メセナ アワード選考委員】 2009～2011 年度委嘱

(五十音順・敬称略)

逢坂恵理子	横浜美術館館長
木下直之	東京大学教授、文化資源学研究専攻
小沼純一	音楽・文芸批評、音楽文化論、早稲田大学文学学術院教授
白石美雪	音楽評論、音楽学、武蔵野美術大学教授
扇田昭彦	演劇評論家、静岡芸術文化大学特任教授
中谷 巖	三菱UFJリサーチ&コンサルティング理事長、不識塾塾長
鷲田清一	哲学者、大谷大学教授
福地茂雄	企業メセナ協議会理事長

【部会開催状況】

6/21(火)第1回部会、7/25(月)第2回部会、8/10(水)第3回部会、10/18(火)第4回部会



メセナ アワード 2011 贈呈式

6. 助成事業

6-1. 助成認定事業

【計画】 本制度の対象となる芸術文化活動の内容、および海外活動まで拡大できないかを調査・検討するとともに、企業や団体のニーズの把握に努め、カスタマイズ対応などで新たな汎用性の高い助成プログラムの立上げを目指したい。併せて、申請受付・助成認定審査委員会実施を年 6 回から 4 回にするなど、委員会運営や体制等の見直しを図りたい。

- 2011 年度は、助成認定制度の運用について、発足以来 2 度目の大きな見直しを行った。審査の回数を年 6 回から 4 回に、海外での文化活動も助成認定の対象に、また「選考」の呼称を「審査」に改めた(選考委員、選考委員会→審査委員会、審査委員)。
- さらに抜本的な制度改革を進めるため、寄付する企業、利用する芸術団体の現場の声を反映するために、協議会会員からなる「助成ワーキンググループ」を組織。第 1 回の会合を 11 月 8 日、第 2 回会合を 12 月 13 日に開催し、新たなファンド形成を含む協議会助成事業の今後のあり方について意見交換した。

【2011 年度の認定件数】

		2011 年度	
	審査委員会	認定件数	申請件数
1	2010 年度第 5 回審査委員会 (2/15)	43 件	55 件
2	2011 年度第 1 回審査委員会 (6/23)	33 件	35 件
3	2011 年度第 2 回審査委員会 (10/4)	23 件	33 件
4	2011 年度第 3 回審査委員会 (12/22)	26 件	30 件
合計		125 件	153 件

※ 2009 年度 (6 回) 認定件数 180 件、申請件数 198 件、2010 年度 (4 回) 認定件数 94 件、申請件数 198 件
※ 協議会の公益法進化に伴う「会計年度」の変更と、年度途中の審査会の回数変更のため、2 月 15 日開催分は「2010 年度第 5 回の審査委員会」とした。

【2011 年度の寄付件数と寄付金額】

期 間		寄付件数	寄付金額	平均値
上半期	2011/1/6～6/30	560 件	1 億 8,354 万円	32.7 万円
下半期	2011/7/1～12/31	386 件	1 億 108 万円	26.1 万円
合計		946 件	2 億 8,462 万円	30.0 万円

※2009 年度(12 カ月分): 寄付件数 1,474 件、寄付金額 7 億 4,431 万円、平均値 50 万円、2010 年度(2010 年 4 月 1 日～2011 年 1 月 5 日): 寄付件数 1,279 件、寄付金額 4 億 1,966 万円、平均値 33 万円

6-2. 震災復興支援事業

東日本大震災 芸術文化による復興支援ファンド

- 3月11日に発生した東日本大震災に対し、①被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動、②被災地の有形無形の文化資源を再生していく活動を支援すべく、同月23日の理事会にて「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド」(通称GBFund)の設立を決定。以降、当面5年間の運営を目標に、広く一般から寄付を募り、助成活動を行った。協議会が初めて直接助成する事業となったが、これまで17年間培ってきた助成認定制度のノウハウが十二分に発揮され、迅速かつムーズに運営できた。反響も大きく報道でもたびたび取り上げられた。
- 年度内に合計5回の選考会を開催し、助成件数は89活動、助成金額は3,749万3,854円。寄付先指定寄付による助成も含めた助成総額は4,605万806円だった。
- 寄付については、1億円の目標に対して年度内(8カ月間)で5,000万円を達成した。協議会会員各社・団体を始め、多くの個人、芸術団体、文化施設、海外在住者などから寄付いただいた。従来協議会と接点のなかった方々から寄付が多数あったことも特筆に値する。また、三菱商事より「三菱商事 東日本大震災復興支援助成金」をいただき、助成先の事後フォロー、翻訳、サイト整備などを充実することができた。

【2011年度の助成件数と助成金額】

GBFund 選考会開催日	申請数	採択(助成)数	助成総額
第1回選考(4/18)	12件	11件	2,450,000円
第2回選考(5/24)	33件	14件	8,354,000円 (寄付先指定寄付4,854,000円含)
第3回選考(6/16)	106件	12件	3,200,000円
第4回選考(8/4)	154件	23件	12,263,600円 (寄付先指定寄付4,850,000円含)
第5回選考(12/13)	201件	29件	11,226,254円
合計	506件	89件	37,493,854円

寄付先指定寄付13件を含む助成総額の合計: 46,050,806円



東日本大震災
芸術・文化による
復興支援ファンド

企業メセナ協議会

GBFund ロゴ協力: NDC グラフィックス

以上

(2012年2月作成)